

科目名	形態機能学Ⅱ Morphophysiology Ⅱ		担当教員 (研究室番号)	山根 基 (非常勤) 灘波 浩子 (203) 大西 範和 (501)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	1年次前期	科目区分	専門支持科目		選択区分	必修	単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	科目等履修生	可
											オープンクラス	可
科目目的	形態機能学Ⅰ、Ⅲ、Ⅳとあわせ、解剖学と生理学の知識や考え方に触れ、看護の基礎となる人間の形態と機能について学ぶ。ここでは、組織、皮膚、骨格や筋、エネルギー代謝、体温調節、免疫や環境適応について学ぶ。											
ディプロマ・ポリシー(DP)	主要なDP	B 人々の生活に根ざした看護を実践するための幅広い教養と専門的知識を有している。(知識・理解)										
	関連するDP	G 看護学に対する研究的視点をもち、主体的に学ぶ姿勢を有している。(関心・意欲)										
到達目標	1. 組織、皮膚、骨格や筋の機能やエネルギー代謝、体温調節、免疫や環境適応についての基本的用語や考え方を理解することができる。 2. 基本的な生体調節のメカニズムについてその概要を説明することができる。 3. グループワークや演習においては、他の学生とも協調しながら主体的に参画することができる。											
成績評価方法(基準)		定期試験の得点(80%) + 「看護への応用」やTBLでの課題(レポートやミニテスト、発表など)の得点(20%)										
再試験の有無と基準等		定期試験と同じ出題範囲で筆記試験を実施しその結果で評価する(100%)。										
教科書		コスタンゾ「明解生理学」、エルゼビアジャパン										
参考書等		朝山正己・彼末一之・三木健寿編著 「イラスト運動生理学」東京教学社										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待		授業ではパワーポイントを使いますが、全部をノートに写し取ることにこだわらず、講義内容をしっかり見聞きしてイメージを掴むことに努めて下さい。看護専門科目での学びに備えて、臨床例を用いて身体の形態や機能について考える演習やフィジカルアセスメントにつながるよう、身体の形態や機能を評価するための簡単な測定を取り入れます。また、TBL (Team based learning) をとり入れ、チームで討論しながら解答を探すことで、得た知識を使える知恵にかえるよう努めます。時間外の学習や他科目の内容を活用することも大切です。これらに積極的にいかかわって、人体の形態、構造、機能やその成り立ちなどのイメージを掴んでください。自分で自分を育てていくことが大学での学びです。										
備考		自分の持っている知識や考え方を駆使して考え、議論することは学びの重要な鍵です。事前に内容の理解に努め、看護への応用などの演習では積極的に課題と向き合いましょう。聞く側は話し手が間違っていると思ってても、話していること自体が素晴らしいとその努力を讃えましょう。講義にはインターネットを活用します。										
回	学習項目				学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	看護のために形態機能学を学ぶ				看護の基盤となる形態機能学を修める意義に触れる。看護職者からのメッセージ				灘波	演習		
2回	姿勢と身体の部位、組織				身体の区分、身体に関わる表現、体位と構え、身体を構成する組織(上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織)について学ぶ。				山根	講義		
3回	皮膚				皮膚の構造とその役割について学ぶ。				山根	講義		
4回	骨				骨の構造、成長、骨代謝、骨格、関節の構造、種類と働きについて学ぶ。				山根	講義		
5回	筋				筋の形状と分類、全身の筋群と名称、筋の作用について学ぶ。				山根	講義		
6回	筋の微細構造と収縮の仕組み				横紋とフィラメントの配置、筋収縮について学ぶ。				山根	講義		
7回	エネルギー代謝①				エネルギー供給系(ATP-PCr系(燐原質系)、解糖系(乳酸系)、有酸素系)、同化作用、異化作用、代謝量について学ぶ。				山根	講義		
8回	エネルギー代謝②				酸素摂取、呼吸商、METSによるエネルギー消費量の評価について学ぶ。				山根	講義		
9回	体温調節①				体温とその測定、体熱の産生・放散のバランス、体温調節の仕組み、発熱(fever)について学ぶ。				山根	講義		
10回	体温調節②				皮膚からの熱放散(伝導、対流、蒸散)、汗腺、温熱性発汗と精神性発汗について学ぶ。				山根	講義		
11回	身体の適応				環境の変化などに伴って起こる適応について学ぶ。				山根	講義		
12回	生体防御①				皮膚、粘膜やリンパによる生体防御について学ぶ。				山根	講義		

回	学習項目	学習内容	主担当 教 員	授業 方法
13回	生体防御②	液性免疫と細胞性免疫について学ぶ。	山根	講義
14回	体温・免疫 看護への応用	生活行動、事例や実験を通して、看護の視点で体温系や免疫系を捉え、看護へのつながりを理解する。	山根 大西	演習
15回	TBLによる学習内容の深化	これまでに学んだ内容（組織、皮膚、骨格・筋、エネルギー代謝、体温調節、免疫）に関する課題を個人とグループ単位で考えるTBLを実施する。	山根 大西	演習

学 習 課 題
1～5回目課題（事後）：学習した内容を復習し、看護への応用やTBLで主体的に考えが述べられるように理解を進めておく。 6回目課題（事後）：看護への応用で学んだ内容をレポートにまとめる。 7～13回目課題（事後）：学習した内容を復習し、看護への応用やTBLで主体的に考えが述べられるように理解を進めておく。 14回目課題（事後）：看護への応用で学んだ内容をレポートにまとめる。 15回目課題（事後）：TBLで問われた内容を復習するとともに、定期試験に備えて全授業内容を総括する。

実務経験を活かした教育の取組
・看護職として実務経験を持つ教員は、看護の実践及び教育・研究活動の経験を活かして本授業を担うことで、初年次の学生の学ぶ雰囲気醸成し、看護への関心を深めるとともに、看護専門科目へのスムーズな導入を図る。□